

水稲用初・中期一発処理除草剤

ゼータプラス®

1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ

雑草へ、猛突進。

オモダカ
クログワイ コウキヤガラ



本剤は(公財)日本植物調節剤研究協会での
A1S区分:難防除雑草一発処理(オモダカ・ク
ログワイ・コウキヤガラ)で判定を取得しています。



エフィータ® 配合
問題雑草に広く効く!!

2
成分

ノビエ
4
葉期

田植
同時

1キロ粒剤のみ
田植同時に処理できます。



ノビエ



ホタルイ



クログワイ



オモダカ



コナギ



イボクサ

ミズアオイ

ゼータプラス1キロ粒剤の適用と使用方法

農林水産省登録 第24331号
【有効成分】フェンキトリアン…3.0% プロピリスルフロソ…0.90%

除草剤分類 27.2

主要雑草に対する使用適期

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草及び 多年生広葉雑草、 エゾノサヤナカグサ	移植時	1kg/10a	1回	田植同時 散布機で施用
		移植直後～ノビエ4葉期 ただし、 収穫60日前まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布
直播水稻	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ミスガヤツリ ウリカワ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、 収穫60日前まで			

ホタルイ	3葉期まで
ウリカワ	
ヘラオモダカ	
ミスガヤツリ	草丈25cm以下まで
ヒルムシロ	発生盛期まで
セリ	再生期まで
エゾノサヤナカグサ	発生始期まで
オモダカ	発生前からヘラ葉期まで
クログワイ	発生前から 草丈10cm以下まで
コウキヤガラ	発生前から 草丈35cm以下まで
シズイ	草丈3cm以下まで

ゼータプラスフロアブルの適用と使用方法

農林水産省登録 第24332号
【有効成分】フェンキトリアン…5.8% プロピリスルフロソ…1.7%

主要雑草に対する使用適期

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草及び 多年生広葉雑草、 エゾノサヤナカグサ	移植後3日～ノビエ4葉期 ただし、 移植後30日まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下
		稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、 収穫90日前まで			
直播水稻	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ミスガヤツリ ウリカワ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、 収穫90日前まで			

ホタルイ	3葉期まで
ウリカワ	
ヘラオモダカ	
ミスガヤツリ	草丈20cm以下まで
ヒルムシロ	発生盛期まで
セリ	再生期まで
エゾノサヤナカグサ	発生始期まで
オモダカ	発生前からヘラ葉期まで
クログワイ	発生前から 草丈10cm以下まで
コウキヤガラ	発生前から 草丈35cm以下まで
シズイ	草丈3cm以下まで

ゼータプラスジャンボの適用と使用方法

農林水産省登録 第24330号
【有効成分】フェンキトリアン…15.0% プロピリスルフロソ…4.5%

主要雑草に対する使用適期

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草及び 多年生広葉雑草、 エゾノサヤナカグサ	移植後3日～ノビエ4葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装(パック) 10個 (200g)/10a	1回	水口施用又は 水田に 小包装(パック)の まま投げ入れる
		稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、 収穫75日前まで			水田に 小包装(パック)の まま 投げ入れる
直播水稻	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ミスガヤツリ ウリカワ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、 収穫75日前まで			

ホタルイ	3葉期まで
ウリカワ	
ヘラオモダカ	
ミスガヤツリ	草丈25cm以下まで
ヒルムシロ	発生盛期まで
セリ	再生期まで
エゾノサヤナカグサ	2葉期まで
オモダカ	発生前からヘラ葉期まで
クログワイ	発生前から 草丈15cm以下まで
コウキヤガラ	発生始期から 草丈35cm以下まで
シズイ	草丈3cm以下まで

有効成分の総使用回数(3剤型共通)

フェンキトリアンを含む農薬の総使用回数	2回以内	プロピリスルフロソを含む農薬の総使用回数	2回以内
---------------------	------	----------------------	------

(上記の内容はすべて2024年3月現在の登録内容)

使用上の注意事項

【3剤型共通の使用上の注意事項】

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの4葉期までに時期を失ないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが異なるので、必ず適期に散布するようにしてください。
- 苗の植え付けが均一になるよう、代かき、均平化および植付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行ってください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
 - ①砂質土壌の水田および漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)。
 - ②軟弱な苗を移植した水田。
 - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさけてください。
- 田植前に生育したミスガヤツリは、完全に防除してから使用してください。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
- その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育中に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は異常気象の場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

【1キロ粒剤・フロアブルの使用上の注意事項】

- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布してください。また、極端な浅水や深水での使用はさけてください。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いは十分注意してください。

【1キロ粒剤の使用上の注意事項】

- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ①散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - ③事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からは場内に散布してください。
 - ⑤水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意してください。
- 前処理剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失ないように適期に散布してください。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。

【フロアブルの使用上の注意事項】

- 使用前には容器を軽く振ってください。
- 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水と共に水田全面に拡散させてください。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達したときに必ず水を止め田面水があふれ出ないように注意してください。
- 無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ってください。
 - ①滴下は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - ②滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないでください。
 - ③作業中、薬液が漏れないように装置の十分な点検を行ってください。
 - ④隣接する場合は水稲に水稲が栽培されている場合は無人航空機による本剤の滴下は行わないでください。
 - ⑤水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分留意してください。
 - ⑥薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
 - ⑦本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないでください。
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすようにしてください。
- 散布の際は不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手袋、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。

【ジャンボの使用上の注意事項】

- 藻類または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 処理に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態に保ってください。処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じてください。
- 小包装(パック)のまま、10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- 水口施用の場合は、あらかじめ2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態(3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 藻や浮き草が多発している水田では拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足の可能性があるので使用をさけてください。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意してください。
- 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意してください。
 - ①眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - ②かぶれやすい体質の人は取扱いは十分注意してください。
- 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 吸湿性があるため湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管してください。
- 袋の中身のバックは強く圧するとフィルムが破れるおそれがあるので注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

SC24.03.T

2024年3月作成